

年代別レポート

小体連

昨年度は、広島県小学生体育連盟が発足してから30年であった。多くの方々に支えられ感謝している。また、広島県小学生総合体育大会陸上競技の部では、大会開催にあたりご支援ご尽力をいただいている広島陸上競技協会に感謝状を贈り、全選手に参加賞(クリアファイル)を配った。

節目を迎えた昨年の大会は、平成30年11月4日(日)に、コカ・コーラボラズジャパン広島スタジアムにて第30回大会を開催した。県内14の都市より41チーム、520名の参加があった。参加チームは前年より2チーム増、参加人数は25名増であった。5年生男子走幅跳で4m68の大会新記録、女子800mで2'26"69の着差なし同タイムでの県新記録が誕生した。

今年度は令和元年10月27日(日)に、同会場にて第31回大会を開催し、県内12の都市より41チーム、509名の参加があった。男子80mHは11秒89で20年ぶり、女子80mHは12秒63で14年ぶりの大会新記録が誕生した。その他の競技においても、大会記録に迫る記録が多かった。

今後、運営の在り方を見直しつつ、できる限り多くのチーム・児童が喜んで参加できる大会になるよう、努力していきたいと思う。今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願い致します。

広島県小学生体育連盟会長
藤本 法生



中体連

中学生の駅伝シーズンが始まり、広島県チャンピオンを決める中国中学校駅伝競走大会が11月17日、東広島運動公園を発着に行われた。本年度は東広島運動公園陸上競技場が改修工事のため一部コースを変更して実施され、女子55チーム、男子56チームが出場した。

女子は、三原五中が前回大会男子に続き、優勝を飾った。昨年度オール1年生で挑み10位に入賞した鷹取中が2位、三連覇を狙った高屋中は3位に終わった。15分後にスタートした男子は、25年ぶり3度目、現コースになってから初の優勝となる磯松中。2位は昨年15位から躍進した松賀中、3位には広大福山中が続いた。

女子のレースを振り返る。第1中継所に最初に飛び込んできたのは4年ぶりの出場となった松賀中の山田依菜(2年)。2秒遅れで東一葉(大和3)が続く。2区は、前評判どおり三原五中が森安桃風(2年)でトップに立ち、3区が終わった時点で後続を39秒離したスキは4区へ。このまま三原五中の独走かと思われたが、県中学校選手権共通女子200mチャンピオンの江原美月優(鷹取2)が中継所手前で逆転、勝負は最終区までもつれた。5区の立花萌成子(三原五1)が区間賞を獲得、後続を引き離し三原五中女子チームにとって第20回大会以来となる通算3度目のフィニッシュテープを切った。

男子のレースは戦前の予想通り、磯松中が先行する展開となった。終始、磯松中が先頭を走る中、松賀中がじわりじわりと差を縮めていく。一時最大64秒あった先頭との差が18秒まで縮まる追い上げは、非常に迫力があつたが、あと一歩及ばなかった。

今大会上位入賞チームの総合タイムを見てみると力が均衡しており、今後どのチームが抜け出すかが興味あるところであり、また、広島県のレベルアップを期待させる走りが見られた。

今年度も多くの子どもたちのあこがれである本大会を終えることができた。中国中学校駅伝も来年、男子は81回、女子は30回の節目を迎える。長い歴史の中に、多くの日本を代表するランナーも輩出してきたこの大会である。中国新聞社、スポンサー企業、広島陸上競技協会へ感謝の気持ちでいっぱいである。そして東広島へ本大会が移ってから48年、東広島市陸上競技協会には運営でたいへんお世話になっている。本当に有難く思う。来年の準備に向け、また子どもたちは練習をスタートさせている。我々中体連も子どもたちの成長に携わる者として感謝の気持ちを忘れず頑張っていきたい。

東広島市立高屋中学校
鈴木 晶雄

高体連

インターハイとその後の主な競技大会について

広島県から過去最多の132名が出場した今年度のインターハイが、沖縄県総合運動公園陸上競技場で行われた(8/4～8)。好結果が期待されたが、女子3000mではテレシア・ムツソーニ(世羅2)が優勝、同ハンマー投で勝治玲海(安芸3)が2位、同800mで上田万葵(舟入3)が8位と、入賞は3つに留まった。

大阪府のヤンマーフィールド長居で行われた第7回全国高等学校陸上競技選抜大会(8/30・9/1)は、普段行われない種目を行ういわゆるトランスファーの大会である。女子ハンマー投で勝治玲海(安芸3)が優勝したほか、男子110mH(0.914m)で八木優気(広島皆実2)が7位、同300mHで栗林隼正(広島国際学院3)が4位、女子四種競技で山崎愛奈(高陽東2)が6位と、4名が入賞した。

第35回U20・第13回U18日本陸上競技選手権大会が広島広域公園陸上競技場(エディオンスタジアム広島)で行われた(10/18～20)。今年度から3年間同競技場で行われることとなり、出場選手だけではなく多くの地元高校生が補助員として参加し、円滑な競技運営を支えた。県内の高校生ではU20女子ハンマー投で勝治玲海(安芸3)が大学生に交じって4位に入賞。U18では男子走高跳で杉原哲平(広島工大2)が5位、同棒高跳で綾大心(近大東広島2)が6位、同三段跳で山田悠斗(広陵3)が2位、女子100mH(0.782m)で浅木都紀葉(広島皆実1)が4位に入賞。地元で行われた今シーズン最後の大きな競技会で、好結果を残した。

今年の全国大会は、高体連としては全国高校駅伝を残すのみとなった。来シーズンはより多くの選手がそれぞれの目標を達成することが出来るよう、これからの冬期練習を乗り越えてより一層の飛躍を期待したい。

広島県高体連陸上競技部 事務局長
五日市高校 野崎 秀和

学生連盟

「広島県強さ」を全国に

広島県学連の加盟校の中で、今年度も全国大会で好成績を残した選手が多く見られた。

6月7日(金)～9日(日)の3日間、Shonan BMWスタジアム平塚で行われた2019日本学生陸上競技個人選手権大会では、広島大学と広島経済大学の2校から計12人の選手が出場した。広島経済大学からは男子800mで濱松海斗選手が準決勝に進出、山崎優希選手は1年生ながら11位に。男子1500mでは大竹康平選手が見事4位入賞を果たし、中距離種目の強さを示した。

次に9月12日(木)～15日(日)の4日間、岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催された第88回日本学生陸上競技対抗選手権大会(全日本インカレ)について振り返りたい。

この大会には毎年の出場校である広島大学、広島経済大学に加え、今年度は広島修道大学の3校から計20人の選手が出場した。広島大学からは安田夏生選手が女子七種競技に4年連続出場、男子400mHに出場した尾崎雄祐選手は準決勝進出を果たすなど今年も多くの選手が輝きを放った。昨年度、県学連加盟校からこの

大会には選手は2校から計12人だったのに対して、今年度は3校から計20人の選手が出場を果たした。私はこのような結果になった理由の1つとして、関東圏の大学に所属する広島県出身選手の活躍が刺激になっているのではないかと考える。お互いの活躍の相乗効果で、今後も「広島県の選手は強い」と全国に証明できるのではないだろうか。

中国四国学生陸上競技連盟広島県支部
幹事長 合田 智哉

実業団連盟

10月20日(日)に第57回広島県実業団駅伝競走大会を、岡山県笠岡陸上競技場発着で開催した。同大会は岡山県社会人対抗駅伝競走大会と同時開催しており、広島・岡山から計22チームが出場。1部では、5区で先頭に立ったJFEスチールAが大会新記録で優勝を手にした。2部では、三菱ケミカル広島が2区で先頭を奪うと独走態勢を築き優勝を飾った。

11月10日(日)には第58回中国実業団対抗駅伝競走大会が世羅郡世羅町で開催され、中盤まで4チームが接戦を繰り広げ、マツダが大会新記録で5連覇を達成。この結果、2020年元旦に群馬県で開催される第64回全日本実業団対抗駅伝競走大会に、マツダ・中電工・中国電力・JFEスチールの4チームが出場権を獲得した。

今シーズンの駅伝・マラソンでの実業団選手の更なる活躍を期待したい。

広島県実業団陸上競技連盟 事務局
マツダ 江頭 健太



マスターズ連盟

広島マスターズ陸上の全会員が
広島陸協の仲間入り

2020年度より、各都道府県陸協を通じて日本陸連への登録が必須となり、文字通り加盟団体として仲間入りをする事となった。従来は都府県協を介して登録の会員のみであったが、広島陸協の関係者の皆さんのご配慮のお蔭である。マスターズ陸上の会員資格の年齢は、既に男女18歳からとなっていたので、かつての中老年陸上競技者の団体から発展して、基本的に当連盟が行う大会の記録は日本陸連に公認されることとなった。

2020年度の主な大会は「全日本マスターズ陸上」が10月に福井県の9.98競技場、中国大会が7月に島根県益田市、県選手権大会が6月にびんご運動公園、記録会が9月に庄原市、中国マスターズ駅伝が3月に庄原市備北丘陵公園で開催予定となっている。(日程の詳細は決定次第HPにて掲載予定)

東京オリンピック後には「国際マスターズ大会」の開催も内定している。陸上競技を生涯楽しめる組織、「明るく楽しくマナー良く」、広島マスターズ陸上へのご参加をお待ちしています。

●大会結果は広島マスターズ陸上HPをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.34hmr.com/>

広島マスターズ陸上 広報
前田 征志郎

公益財団法人 日本陸上競技連盟栄章

秩父宮章	元重 秀美 (三次市陸協会長・広島陸協参与)
高校優秀指導者章	三木 仁司 (安芸高等学校指導教諭)
中学優秀指導者章	石田 積 (安佐中学校教諭)
高校優秀選手章	中新 美月 (西条農業高校→福岡大学)
中学優秀選手章	浅木都紀葉 (口田中学校→広島皆実高校)
安藤百福記念章	花守慎太郎 (東広島TFC)

公益財団法人 日本スポーツ協会 スポーツ指導者等表彰

【永年表彰・スポーツドクター】

- 川堀 耕史 (広島陸協理事・広島市)

公益財団法人 広島県体育協会体育賞

【功労者の部】

- 二反田 亘 (広島陸協・広島市)
- 平野 克彦 (広島陸協・広島市)
- 富中 宗義 (広島市スポーツ協会)
- 砂田 恭明 (尾道市体育協会)
- 藤本 法生 (広島県小学生体育連盟)
- 小林 康史 (広島県スポーツ少年団)

一般財団法人 広島陸上競技協会

【功労章】

- 川西 孝雄 (広島市)
- 畠山 洋二 (広島市)
- 大附 邦彦 (江田島市)
- 塚本 昭彦 (尾道市)
- 児玉 一義 (呉市)

一般財団法人 広島陸上競技協会

【優秀選手賞】

●国際大会の部

- 木村 文子 (エディオン)
第23回アジア陸上競技選手権大会 (4月24日・ドーハ)
女子100mH 優勝 13秒13
- 上田 万葵 (舟入高校)
第3回アジアユース陸上競技選手権大会 (3月17日・香港)
女子800m 3位 2分09秒76
- 松重 安真 (市立広島中等教育学校)
第3回アジアユース陸上競技選手権大会 (3月17日・香港)
男子やり投げ(700g) 3位 69m36

- 白砂 匠庸 (三次市陸協)
ドバイ2019世界パラ陸上競技選手権大会 (11月10日・ドバイ)
F46男子やり投げ 8位 53m69

●国内大会の部

- アモス・クルガト (中電工)
第47回全日本実業団ハーフマラソン (2月10日・山口)
男子ハーフマラソン 優勝 1時間01分06秒
- 木村 文子 (エディオン)
第103回日本陸上競技選手権大会 (6月29日・博多の森)
女子100mH 優勝 13秒14
- 神田 菜摘 (福岡大学)
第103回日本陸上競技選手権大会 (6月30日・博多の森)
女子走高跳 優勝 1m77
- テレシア・ムッソーニ (世羅高校)
第72回全国高等学校総合体育大会 (8月8日・沖縄)
女子3000m 優勝 9分11秒15
- 山本 悠理 (大和中学校)
第46回全日本中学校陸上競技選手権大会 (8月23日・長居)
女子800m 優勝 2分11秒43
- 勝治 玲海 (安芸高校)
第7回全国高等学校陸上競技選抜大会 (9月1日・長居)
女子ハンマー投 優勝 54m63
- 湯浅佳那子 (日本体育大学)
第88回日本学生陸上競技対校選手権大会 (9月13日・長良川)
女子100m 優勝 11秒64
- 安立 雄斗 (福岡大学)
第35回U20日本陸上競技選手権大会 (10月19日・広島広域)
男子三段跳 優勝 15m67
- 澤田 孝弘 (広島マスターズ)
第40回全日本マスターズ陸上競技選手権大会 (9月14日・前橋)
M60男子走高跳 優勝 5m01
- 大石 博暁 (マスターズ陸上広島)
第40回全日本マスターズ陸上競技選手権大会 (9月15日・前橋)
M45 男子円盤投(2,000kg) 優勝 39m25
- 森安 桃風 (三原第五中学校)
第27回全国中学校駅伝大会(12月15日・滋賀希望が丘)
女子2区(2.0km) 区間賞 6分48秒
- 第74回国民体育大会優勝および入賞の部
いさぎ茨城ゆめ国体
- 【1位】 ●湯浅佳那子 (日本体育大学)
成年女子100m 11秒62
- テレシア・ムッソーニ (世羅高校)
少年女子A3000m 8分51秒77
- 【2位】 ●松尾 隆雅 (東洋大学)
成年男子100m 10秒40
- 浅木都紀葉 (広島皆実高校)
少年女子B100mH 13秒65
- 【3位】 ●神田 菜摘 (福岡大学)
成年女子走高跳 1m75
- 中村 一達 (安古市高校)
少年男子B砲丸投(5,000kg) 15m66
- 【4位】 ●上田 万葵 (舟入高校)
少年女子共通800m 2分10秒44
- 【6位】 ●上田 万葵 (舟入高校)
少年女子共通800m 2分10秒44

- 村上 碧海 (西条農業高校)
少年女子共通やり投げ 47m65

- 【7位】 ●乃美 裕介 (尾道北高校)
少年男子A走高跳 7m19

- 【8位】 ●栗林 隼正 (広島国際学院高校)
少年男子A400mH 58秒27

- 山本 悠理 (大和中学校)
少年女子B1500m 4分26秒39

一般財団法人広島陸上競技協会【新記録賞】

●広島県記録

- 湯浅佳那子 (日本体育大学)
女子100m 11秒62
第74回国民体育大会 (10月5日・茨城)

●県高校記録

- 大地 智也 (神辺旭高校)
男子砲丸投16m07
第72回広島県高等学校総合体育大会 (5月24日・広島広域)
- テレシア・ムッソーニ (世羅高校)
女子1500m 4分14秒05 ※国際
第8回庄原市ナイター長距離記録会 (8月31日・上野総合)
- テレシア・ムッソーニ (世羅高校)
女子3000m 8分51秒77 ※国際
第74回国民体育大会 (10月7日・茨城)
- 勝治 玲海 (安芸高校)
女子ハンマー投 54m63
第7回全国高等学校陸上競技選抜大会 (9月1日・長居)

●県中学生記録

- 河野 樹粋 (白岳中学校)
男子100m 10秒83
第65回全日本中学校通信陸上競技広島県大会 (6月29日・広島広域)
- 山本 悠理 (大和中学校)
女子1500m 4分26秒39
第74回国民体育大会 (10月7日・茨城)

●県小学生記録

- 上田 優希 (CHASKI)
女子80mH 13秒11
第35回全国小学生交流広島県大会 (7月7日・広島スタジアム)
- 藤井 亮太 (御野陸上)
男子80mH 12秒56
第35回全国小学生陸上競技交流大会 (8月11日・横浜)
男子80mH(0.600m) 11秒66
第44回広島県民体育大会 (10月6日・上野総合)

●マスターズ日本記録

- 芦原 広美 (オリンピックプラス)
M50女子五種競技 3781点
第24回中国マスターズ陸上混成競技選手権大会 (9月8日・津山)

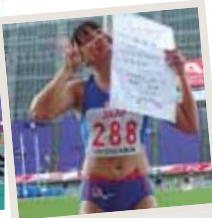
公益財団法人広島県体育協会【特別表彰】

●優秀指導者

- 佐々木道徳 (西条農業高校)
第74回国民体育大会 陸上競技女子監督

U20U18日本選手権観戦記

小熊みさん 広島市陸協(表彰係)



U20U18日本選手権の表彰式でのこと。この広島大会で女子選手入賞者達にカープコラボ陸女子のピンク缶バッジをプレゼントしました。ひとりひとりバッジの由来と広島の話などしながら渡しました。「かわいい、嬉しい」と喜んでくれました。「じゃ、胸につけて出ようか」、「どうする?」と8人はワイワイ楽しそうに話し合いまとまった様子。「動画にしま〜す見ててね先生」と言って満面の笑顔で表彰台にかけ上がっていききました。なんと台の上では胸にバッジをつけた女子達が8位からバットでボールを打つ様子を表現。最後に優勝者はボールが飛んでいくのを眺めるというまでの静止画を表現してくれました。カープの野球、そしてこれからの自分達の行く末を占うかのように表現した姿は、レースを終えた仲間とのノースайдの精神を感じた瞬間でした。心暖まる姿に感動でした。その後も「かわいい」「嬉しい」と喜んでくれる選手達。どんなパフォーマンスすると悩んだり。負けて悔しいと泣き出したり。「お好み焼き食べたよ。」「原爆ドーム行きました。」「宮島で揚げもみじおいしかった。」など広島満喫の様子を話してくれたり。控室での悲喜こもごもの姿も表彰に向かうときには笑顔で8人が台の上上がる。その姿は心暖まるものでした。その胸にはバッジが。なぜか嬉しくなりました。広島のおもてなしの心は届いたようです。

走ることが好き、歩くことが好き、
走る人を応援することが好き、
ワクワクするその気持ち、
そう! あなたも陸女!! RIKU★JO



青少年の夢を応援します!

(順不同)

青少年健全育成
協力企業

- 株式会社ツルハグループ
ドラッグ&ファーマシー西日本
- アックスジャパン株式会社
- 朝日医療専門学校広島校

- 中国電力株式会社
- 広島管公学生服株式会社
- 青山商事株式会社
- デサントジャパン株式会社
- 有限会社道後山高原サービス
- 株式会社中電工
- 広島駅弁株式会社

- 株式会社広島銀行
- 株式会社もみじ銀行
- 広島電鉄株式会社
- 株式会社合人社グループ
- 大塚製薬株式会社広島支店
- 株式会社 BTM
- 学校法人石田学園

- 広島ガス株式会社
- 株式会社体育社
- 株式会社ニシヒロ
- 株式会社ニシ・スポーツ
- 広島化学学園
- COCOKALA GROUP
- T&T WAM サポート株式会社

- T&T タウンファーマ株式会社
- T&T ネットワーク株式会社

特別協力企業

- ミズノ株式会社
- 株式会社キリンビバックス